

昭和五十八年度

団体役員紹介

- 婦人会**
- 津奈木校区婦人会
会長 宮崎 哲
副会長 千々岩 順子
会計 竹本 カチ子
生協 白坂 寿子
体育部長 沢井 みすえ
- 地区 支部長 副支部長
染竹 松田 良子 下川ハルヨ
浜崎 森山 友子 林 美智子
桜戸 山口ヨミ子 山口 幸子
- 町中 六車不二子 高橋 富子
新川 元村 英子 芦浦 幸子
古川 西川ムキ子
倉谷 坂本 敏子 堀井 時枝
内野 山路トミ子 山川アサ子
上下門 高見くみ子 久村又エモ
小津奈木篠原 智子 松永レイ子
大泊 桜庭ミズエ 増田 まき
赤崎校区婦人会
会長 尾花 ミヅノ
副会長 篠原 はま子
会計 開田 ヒサノ
日当支部長上 村 安子

平国小家庭教育学級の思い出

由川 二郎

「知る事は楽也！人生を楽しくしてくれます。」とはNHKの鈴木アナウンサーによる「面白ゼミナール」のはじまりのことばです。平国小の家庭教育学級も地域の方達の「知る事」から出発したのではないかと思います。

小生五十三年着任第一回目の講座は旧校舎六年教室で、学級長は上村真富氏、学級生二十有余名の皆さんで行なわれました。

そのおり、PTA会長浜田亮氏が挨拶の中で「平国の家庭教育は十年以上になります、田舎こそこんな地域学習が大切ではないでしょうか。」と話されたことが印象に残りました。

以来今日まで、学級にお手伝いして来ました。

或る時は、町長さんの性教育あり、又、今は亡き永松先生の郷土玩具についての伝承遊びに往時の幼かりし頃を偲び、親子竹細工で汗を流したこともありました。

汗を流したこともありました。レクリあり、キャンプありと変化に富んだ講座で、月が変わるのが待遠しい気持ちでした。そして其の間学級生と語り合い、全村教育を地で行く思いでした。

今年二月の閉級式をむかえ、これで終りかと名残惜しい気もしますが、



五年間本当にありがとうございました。良い人生の勉強をさせて頂いたこと心からお礼申し上げます。

津奈木町連合青年団

- 日添支部長 吉野 ケイ子
日添下 藤原 秀代
塩屋 篠原 はま子
平国校区婦人会
会長 鬼塚 妙子
副会長 野崎 節子
会計 野崎 久子
書記 吉野 ミエ子
生協係 村上 国子
体育部長 上村 サミ子
福浦支部長 山 サタ子
平国上 村上 国子
平国下 上村 サミ子
- 津奈木町連合青年団
団長 新立 啓介
副団長 岩崎 泰祐
広報部長 山口 武久

- 広報副部長 佐々木 茂喜
女子部長 村上 成代
女子副部長 伊藤 和美
文化部長 馬乗園 健一
文化副部長 山下 まゆみ
レクリ部長 野崎 輝男
レクリ副部長 上 真理子
体育部長 新立 晴敏
体育副部長 柳 迫 真美子
事務局長 大園 和史
事務局員 山川 京子
平野 新市
山本 誠吾



わたしたちの先生

- 津奈木幼稚園
写真は前列右から
伊藤多美子先生 事務
日野 敏子先生 もも組
後列右から
山下 泉先生 うめ組
財部 留夫先生 園長
吉野 君代先生 さくら組

歳時記



万緑の園のごとしや海芋咲き

- PTA**
- 津奈木中学校
会長 齊藤 ノブ子
副会長 千々岩 勝次郎
" " 塚本 禎子
- 津奈木小学校
会長 福田 祐二
副会長 村上 ノブ子
- 赤崎小学校
会長 佐々木 満雄
副会長 岩崎 博文
" " 上村 義治
- 平国小学校
会長 福田 祐二
副会長 村上 ノブ子

- 津奈木町老友会
会長 福村 安則
副会長 福島 円太
" " 岡松 カキ
監事 藤本 兵五
" " 福島 末喜
地区名 会長名
竹中 藤本 兵五
染竹 鶴野 己登志
浜崎 福島 末喜
浜戸 浦口 初義
桜中 田村 正
町中 川添 新次郎
大泊 新立 次義
中尾 緒方 孝行
古中尾 山本 直
倉谷 益田 八百喜
内野 山路 八百喜
上下門 津々木 安行
川内 西平 貞義
福浦 福山 末義
福国 福村 安則
日当 緒方 安則
日添 緒方 安則
小津奈木 小嶋 正弘

楽しかった親と子のふれあい

親子ソフトボール大会催される

昭和五十八年度

津奈木

前は乃西

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(代表3111)
印刷所 旭印刷
電話(水保) 4101番



六車町長の始球式

去る五月三日、照らず、降らずの好天に恵まれ、親と子の心のふれあいを求めて、親子ソフトボールとビーチボール大会が開催された。

ソフトボールは午前八時半開会宣言のあと、主催者のあいさつ、染竹チームの鶴田選手親子の選手宣誓があり、つづいて、六車町長の始球式で試合が始まった。

試合は小学生チームから始まり、小学生と母親のけんとうに、父親や中学生は大喜び、変わって、中学生チームの試合に入ると、小学生や母親達が声援を送るなど、なかなか風景が、四コートいっばいに展開された。

特に昼食時間を設けなかった関係で、試合の合間にあちらこちらで、昼食風景が見られたが子供達には、それがまたうれしいらしく、はしゃぎまわっていた。

ソフトボール試合結果は次のとおり。

優勝：日当 二位：福浦
三位：日添 三位：平国下

子供の日を記念して、親子ソフトボール大会が実施されるようになって本年で十五回、年々子供の減少によって、親子ソフトボールが出来ない地域が増えてきた。そこで本年から、ソフトボールに出場出来ない地域だけで、ビーチボールバレーの試合を行うことになった。

本年は町中、古川、川内、倉谷、福浦の五チーム(但し福浦はソフトボールにも参加)が、リンク制で、一セット21点三セットの二試合ずつを行い得失点差により順位は次のとおり決定した。

優勝 倉谷 二位 町中 三位 川内



「いくよー」チビッ子選手大ふんとう

楽しい団らんのひととき

「ほしがりません勝つまでは」と歯を喰いしばって物資不足の苦しみに堪えて来た私達だ。戦後アツと云う間に高度の経済成長を遂げた日本は、津々浦々まで物資が溢れた。生産過剰と知りながらも企業は、生産しないや喰えない、売らねば喰えないので、あの手の手で必死になつて消費者に迫ってくる。消費は美德」と云う言葉が生まれ、耐乏と云う言葉が無くなった。

正月、親戚をちよいと一巡りした子供が貰ったお年玉が数万円になったと云うこの姿で、節約とか冠婚葬祭の簡素化を呼びかけたことには相当の勇氣が必要だったが、この頃は婦人会や青年団又は区長会等当局と協力して少しずつでも改善のきざしが見える事はうれいことである。

大平の世に恵まれたすぎた人間共が、花には風の例えも知らず驕りに驕り、分を忘れ遊惰と虚栄に耽った結果は、自滅こそすれ栄えた例は何処の国にもない。

消費は美德の見本のような豪華絢爛たる、超過保護児の結婚式よりも、田舎から両親を呼び数人の友人を招き、金七千円の経費でつましい結婚式を挙げた或る勤労青年の前途を祝し万歳と拍手を贈りたい。(H生)

一言



前列右から
 桃原 良三先生 特殊
 田中 正臣先生 教頭
 宮崎 勇先生 校長
 粟塚 岩雄先生 理科
 二列目右から
 山本 澄代先生 二年二組
 高橋 泰子先生 二年一組
 田河 慶子先生 一年二組
 鶴田 和子先生 一年一組
 三列目右から
 山内 美昭先生 四年一組
 上岡 裕子先生 四年二組

津奈木小学校

山田 義博先生 三年一組
 本田 浦子先生 三年二組
 四列目右から
 本村 真也先生 六年一組
 右田 恒美先生 六年二組
 吉田 祥子先生 五年一組
 泉 清治先生 五年二組
 後列右から
 森 道子先生 養護
 村上 昭子さん 事務
 千田 慎子先生 事務
 大湖 雅子先生 養護

平国小学校
 前列右から
 山崎 優子先生 一年
 徳永 敬二先生 校長
 岩崎 新先生 教頭
 池田 郁雄先生 六年
 後列右から
 鶴田 和彦先生 四年
 吉海 広先生 五年
 野崎由美子さん 事務
 有田 秀子先生 養護
 木村 浩美先生 三年
 藤原 審二先生 二年

町内各小・中学校 わたしたちの先生



赤崎小学校
 前列右から
 東 栄助先生 三年
 山田 格先生 六年
 野口 久生先生 教頭
 出水 晃先生 校長
 寒川 正典先生 四年
 後列右から
 白川 良子先生 養護
 深川 祥子先生 二年
 宮嶋真奈美先生 五年
 森山サツキ先生 一年
 石田 昭子さん 事務



津奈木中学校
 前列右から
 長谷川徹郎先生 事務
 野田 浩次先生 国語
 富田 久雄先生 教頭
 中元 敏行先生 校長
 浜田 洋一先生 社会
 塚本 宏先生 一年三組
 村田 晃治先生 一年一組
 中列右から
 中村 秀子先生 養護
 大童久美子先生 二年一組
 西 宏子先生 三年一組
 向松 時良先生 社会
 佐々木興四郎先生 数学
 大崎満洲美先生 二年二組
 後列右から
 和田 保隆先生 二年三組
 坂本 郁博先生 一年二組
 中村 末男先生 三年二組
 本田 邦生先生 三年三組
 加藤 昇先生 保体

昭和57年度末 教職員人事異動

これまで毎日顔を合わせ、すっかり心のふれあいが出来あがった先生方が、或る日突然代わられる——子供たちにとって先生方の異動は、大人たちが考える以上に大事件だと思つて、本年は本町にとって、例年になく大異動が行われた。特に町内四校の内、三校の校長先生方が交代され、また、七名の先生方が本町を最後に、永年の教育界を勇退されることになった。ここに謹んで、転・退任される二十名の先生方に対し、心からこれまでのご尽力に感謝申し上げ、新たに本町へおいでいただく先生方へこれからの活躍をお願いして、紹介にかえます。異動内容は下表のとおり。

学校別集計

| | 津奈木小 | 赤崎小 | 平国小 | 津奈木中 | 計 |
|------|-------------------------|---------|------------|------------|-----|
| 転出総数 | 9 | 2 | 3 | 6 | 20 |
| 内 校長 | 1. 鬼塚校長(退) | | 由川校長(退) | 吉田校長(湯浦中) | (3) |
| 退職 | 4. 鬼塚校長先生、森下村福山先生、八代城務含 | 1. 北田先生 | 1. 由川校長 | 1. 小嶋先生 | 7 |
| 管外 | 3. 八代城務含 | 1. 八代 | 2. 熊上益城 | 0. | 7 |
| 管内 | 2. 八代城務含 | 0. | 0. | 5. 吉田校長を含む | 6 |
| 転入総数 | 9 | 2 | 3 | 6 | 20 |
| 内 校長 | 宮崎校長(葛渡小) | | 徳永校長(井手田小) | 中元校長(水一中) | (3) |
| 管外 | 1. 熊上益城 | 1. 熊上益城 | 0. | 0. | 2 |
| 管内 | 5. 校長含事務含 | 0. | 2. 校長含 | 6. 校長含 | 13 |
| 新採 | 3. 事務含 | 1. | 1. | 0. | 5 |

異動率その他

| | 異動率 | | 平均年令 | | 57年度 | | 58年度 | |
|------|-------|-------|-------|-------|------|-----|------|-----|
| | 町内 | 管内 | 57年度 | 58年度 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 津奈木小 | 47.4% | | 42.4才 | 37.9才 | 9名 | 10名 | 9名 | 10名 |
| 赤崎小 | 22.2 | | 44.2 | 40.8 | 5 | 4 | 5 | 4 |
| 平国小 | 33.3 | | 34.6 | 36.6 | 6 | 3 | 5 | 4 |
| 小学校計 | 37.8 | 29.7% | 40.9 | 38.3 | 20 | 17 | 18 | 18 |
| 津奈木中 | 33.3 | 33.01 | 42.6 | 39.6 | 15 | 3 | 15 | 3 |
| 総計 | 36.3 | | 41.5 | 38.7 | 35 | 20 | 34 | 21 |



津奈木中学校 中元 敏行

道の体得者

この町には、日本人としての生き方が残っています。勤勉、恕、義、どれをとっても最高の道です。是非、津奈木の子等にこのすばらしさを説き、託したいと願っています。



津奈木小学校 宮崎 勇

たくましい子供の育成を

そのための一つとして、親は、子の気持をどこまで深く察知するかに留意し、適切な指導をしてください。学校としては、捨てられて、尚咲く花の哀れさに、亦とりあげて水を与えけり」の心で導いて行きます。「三者一体」を忘れずよろしくお願い申し上げます。



平国小学校 徳永 敬二

舞っていました。津奈木の発展を象徴しているように思われます。津奈木町には、孝女千代の碑があり、家族愛、隣人愛の精神が流れており、又、町出身の先生が多いことから、向学の伝統があるものと思えます。此の心を持った立派な津奈木人をつくりたいと思います。

皆さんよろしく
 平国はすばらしい所です。小高



文部省海外教育事情視察記(二) 津奈木小 田中正臣

「ただいま時速百キロ」バスは、ブレーマハーフェンからブレメンに向って三車線の高速道路をゆれもせずひた走る。案内人の話によると、このようなアウトバンは七五〇キロメートルも整備され、しかも、どこまで行っても無料で、速度の制限もないとか。ヒットラーが残した唯一の遺産だと強調していた。

何百キロも続くアウトバンの両サイドに広がるのは牧場であった。ドイツといえはルール工業地帯を代表とするような工業立国を想像してきたのに、山の見えない、広漠とした平原にホルスタインのんびりと草を食む牧場国であった。

めずらしい道路標識は「鹿に注意」であった。

ブレーメンの中央駅に用便のため立寄った私たちは、駅の構内をうろつく間にふしぎなことに気がついた。構内が実に静かだ。列車が入り、旅客が降り降りする音だけで、拡声器による案内も注意も全然ないのだ。

ドイツ人は、自分の責任において行動している現実を静観することが出来た。

ブレーメンの音楽隊
 市役所前の広場で吹奏楽を楽しむ一団があるかと思えば道路にすわりこんでギターを奏で歌いまくる二団、三団もあった。フリユートに所望し聴き入る中年婦人がリズムに体をゆらし、十五分毎に回転して開く窓の音楽を子ども連れの若夫婦がむつまじく寄り添って待っていた。(つづく)

